

第54号



図書館報



巻頭言

早くも師走となりました。この一年の図書館の思い出に残る出来事を二つ述べます。

一つはカビです。最近の気候温暖化の影響でしょうか、全国的にカビの被害に遭う図書館が増えています。昨年10月に、津山高専の図書館でもカビが大量発生する事態が起こりました。この問題に対して、関係者のみなさまのご協力のもと、迅速かつ徹底的な対策を講じることができました。

具体的には、春休みと夏休みを利用して、人海戦術により8万冊ある蔵書を一冊ずつエタノールで拭いてカビの除去を行いました。長らく使っていなかった集密書架の除湿器を稼働させ、梅雨に入る直前5月に新たに業務用除湿器を2台設置しました。空気循環のためのサーキュレーターや、浮遊しているカビ菌を除去するための空気清浄機も数台配置しました。学習や読書の妨げにならないように、できるだけ小さな音で運転するように設定していますが、多少の音はご容赦ください。

清掃業者による本格的な床の清掃も行いました。館内のにおいが変わったと感じる方もおられるのではないのでしょうか。司書の内田さんが、館内の温度、特に湿度を頻繁にチェックしてくださっており、二度と被害に遭わないよう空調管理に気を配っています。

この件に関しましては、関係者のみなさまのご理解とご支援に心より感謝申し上げます。また、一時的に図書館を利用できない時期があったことを、心よりお詫び申し上げます。

もう一つは絵画です。今年10月、総合情報センター前の壁に、100号サイズの大きな油絵が掛けられたことにお気づきのことと思います。津山まなびの鉄道館の転車台の絵です。津山高専機械工学科一期生の山口好三さんが描かれ、寄贈してくださったものです。本校の美術部創設にもご尽力

され、在学中に将来は絵の道に進むかどうか迷われたようですが、ご卒業後は大和ハウス工業に就職されたとお聞きしています。殺風景だった壁に色が添えられ、館内の雰囲気がよくなったと思います。

巷では図書館が単なる学びの場にとどまらず、地域社会の活性化にも貢献する存在となっています。最近では、町おこしの一環として図書館が積極的に活用され。多くの市民のみなさまに親しまれる場となっています。地域の歴史や文化を紹介するイベントや、地元の特産品を取り扱う展示など、多彩な活動が行われています。

これからも、津山高専の図書館は学びと交流の場として、そして津山高専の発展に寄与する拠点として、みなさまに愛される存在であり続けることを目指してまいります。どうぞ引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



図書館長
横谷 正明

— CONTENTS —

先生お薦めの本	3
図書委員活動報告	6
ブックハンティング新刊紹介	8
弥生祭での展示	10
図書委員お薦めの本紹介	11
校内読書感想文コンクール	12
ご存知ですか、図書館の使い方	15

先生お薦めの本

先生から学生へのお薦めの本を紹介します



先進科学系 栗井 貴子

『手しおにかけた私の料理』

辰巳 浜子：著（婦人之友社）

専門分野の生命にまつわる読み物を紹介しようかなとも思ったのですが、専門の話は、いくらでも話す機会があるので、今回は専門とは異なる本を紹介しようと思います。

今回紹介する本は、昭和35年に書かれた家庭料理の本です。昭和35年は西暦で言うところと1960年、今から65年前、カラーテレビの放送が始まった年だそうです。そんな昔の料理の本を紹介させてもらいます。母が祖母からこの本を受け継ぎ、そして、母からこの本を受け継ぎました。祖母は料理好きで、たくさんの料理の本を持っていました。そして、料理好きの母はたくさんの本を受け継ぎ、母自身もたくさんの料理の本を新たに購入しています。その料理の本棚の中で、わたしのいちばんのお気に入りがこの本です。

あまりに昔の本なので、現在は本屋さんで手に入れるのは難しいかもしれません。しかし、料理に不慣れな友人が夫について海外に行く際に、この本をプレゼントしたいと思い検索すると（とんだお節介ですが）、“辰巳芳子編”と書かれた、同じ表紙の本が販売されていました。辰巳浜子さんの娘さんの辰巳芳子さんが、伝統を守るべく編集され、今の時代にも受け継がれていたのです。

今時、スマホで検索すればすぐにレシピサイトの人気 No.1 レシピが見られ、作り方の動画を見ることができます。この本には、動画もないし、今時の便利グッズも載っていません（むしろ、“拾ってきた小石を布袋に入れて重しにする”など、時代を感じる衝撃的なことが書かれていたりします。娘さんの辰巳芳子さんの本にはおそらく書かれていないと思いますが…。）けれど、例えば、“箸はしばらく水につけてから拭いて出す。そうすると箸の先にごはんがつ

いたり醤油の色がついたりしないで綺麗に食事ができる”など、こまやかな気配りが書かれています。普段こんなに丁寧に温めなおすことはないと思うような汁物の温め方まで書かれています。そして、食材を見極めてどのように味付けをするのかが書かれています。たとえば魚を煮る時、レシピサイトで検索して調理する場合、書かれているままに調味するかと思います。この本では、魚の油の乗り方などの癖に応じてどのように味付けや火の入れ方を変えると調和が取れ、おいしく煮ることができるのか、魚の面を見て見極めることについて書かれていたりします。一つ一つの台所仕事が丁寧に書かれていて、こまやかな料理のコツや気配りを、まるで母が隣に立って教えてくれているような本です（母にしては料理が上手すぎて、一流の料亭の料理長かもしれません）。

この本は、ただの料理の本ではなく、食べる相手への配慮や愛情、料理そのものへの愛情が詰まっています。そして、食の文化を伝える本のように思います。忙しさの中で、生活のいろいろなところがつい雑になってしまいがちですが、この本を手にとると、少し立ち止まり、生活の基礎を大切にすることを思い出すことができます。豪華な食事をとることもいいですが、丁寧に手しおにかけた食事を口にすることが、日々を豊かにし、心を豊かにするのではないかと思います。

これから一人暮らしをはじめる学生の方々、日々を大切にすることを忘れずに、そして、食事を通して体をいたわって過ごしてもらえればうれしく思います。これから料理をしてみようと思っている学生の方々にも、ご家族や友人に心のこもった料理を作ってあげて、幸せな時間を過ごしてもらえたらと思います。



機械システム系 関 一郎

『図でよくわかる機械材料学』

渡辺義見, 三浦博己, 三浦誠司, 渡邊千尋: 著
(コロナ社)

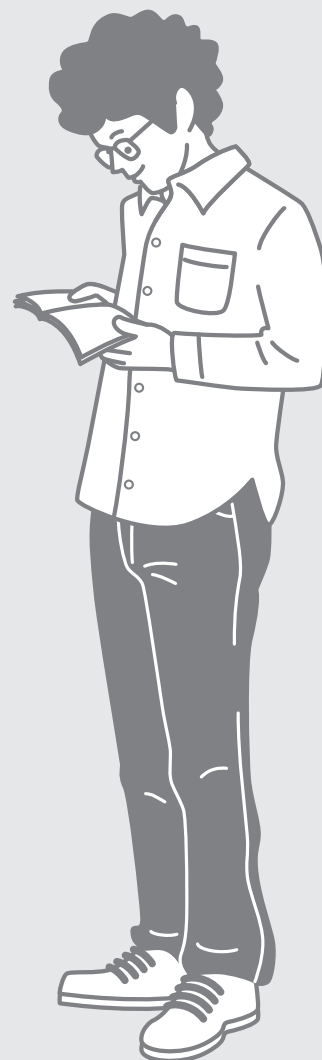
機械システム系の学生さんは系配属早々から材料学という複雑怪奇な授業が始まりますので早々から泣かされていると推察いたします。優秀な本学学生の皆さまでしたら、そんな授業対策も万全だと思いますが、一部の課題レポート作成のための資料探しに悩む熱心な学生さんのために私からも一冊の良本を紹介いたします。

まず、材料と聞いて皆さまが思い浮かぶのがプラスチックなどの有機材料、お茶碗などのセラミックスと呼ばれる無機材料、この他にも金属材料などがあります。その金属材料の中にも鉄や銅やアルミニウムなど様々なものが存在しています。さらに金属元素はお互いの仲が良いので混ぜ合わせて別の特性をもつ合金を造ることができます。さて、ここまででどのくらいの金属材料が存在しているか気が付いたでしょうか？ そもそも、金属の種類は前述のものだけではありませんのでその種類は無限に存在します。そんな無限にある金属材料の特性を理解する機械システム系の学生は超絶優秀なのかもしれませんが、全部把握するのは私でも無理です。ではどうするのか？ ヒントがこの本にあります。

この本を一読されると驚かれると思いますが、この本は材料学の本であるにもかかわらず特定の種類、例えば多くの材料学の教科書に書いてある鉄の組織や機械的性質の説明がありません。その代わり、どんな結晶構造があるのか？ 結晶構造の違いが機械的性質にどのように寄与するか？ 変形を起こすにはどのような動きを伴うのか？ 機械的性質を向上させるためにはどんな方法があるのか？ 等々、機械システム系で材料学を学ぶ学生には喉から手がでる程、欲しい内容が書いてありますし、機械システム系以外の学生さんとしては読み物としてパズルを読み解く面白さのある本だと思います。つまり、ヒントの答えとしては、無限に存在する材料の特性を全て覚えなくても扱っているのは全て原

子ですし、元素が異なれば多少の差異はありますが解法のパターンを読み取って答えを導くことは可能です。この本にはその答えを導くためのヒントが丁寧に解説されています。ただ、内容を理解して読み進めていくのは楽ではないと思いますが、理解していけば身の回りの材料にかかわる物理化学的な事象を読み解くヒントになりますので日々の生活が面白くなると思います。

好みが分かれる本だとは思いますが、教科書にもしたいと思った良書ですので皆さまが一読され、興味を持ってくれることを期待します。



機械システム系 近本 彬

『鉄道員（ぽっぽや）』

浅田 次郎：著（新潮社）

機械システム系の新任教員の近本です。先程、図書委員の学生から「明日の昼までに先生のおすすめの本の原稿が必要です！」ということをお急ぎに伝えられたので、急かされて本の紹介を書いています。そこで、今回は忙しい人でも読める短編小説を紹介します。

そもそも、私はおすすめの本を紹介するほど多くの本を読んでいるわけではありません。また、登場人物が多い小説や分厚い小説は登場人物の名前や話の流れを忘れてしまうので、それらも好みません。しかしながら、短編小説やショートショートは多く読んできました。短編小説は、コメディやサイエンスフィクション、ロマンス、ホラーといった数多くのジャンルの小説が短い文章で端的に構成されており、短時間でも楽しむことができる魅力があります。

私が大学生の頃の地下鉄は、まだ携帯電話の電波が圏外だったので、本を読む以外にすることがなく、鉄道に揺られながら短編小説をよく読んでいました。その頃に読んでいた一冊が浅田次郎の短編小説集の『鉄道員（ぽっぽや）』です。この本は8つの短編小説が収録されており、表題作の鉄道員（ぽっぽや）は40ページ程度の短編小説です。

この小説の舞台は、廃線が決定しているの北海道の幌舞駅（架空の駅）が舞台です。主人公は勤続四十五年の幌舞駅の駅長・佐藤乙松です。仕事ひとすじの真面目な鉄道員の真冬の最後の日を書いた物語です。読んでいくうちに物語に引き込まれ、降りしきる雪や駅で孤独にキハ12を待つ駅長など情景が浮かび、少ない文量で胸に迫る切ない気持ちにさせられます。

読む人によって感想は様々かと思います。私が大学生に読んだときは「切なくていい話だな」と主のストーリーに対しての感想が大部分を占めていました。しかし、改めて読み直すとそれだけではなく、私が前職の製造業で働いていたときを思い出します。そこには、高い技術

力と責任感を持ちひたむきに自身の仕事に向き合う多くの佐藤乙松のような仕事一筋の職人がいました。その仕事一筋の職人によって、社会のサービスや物流、生産活動が支えられて私たちのあたりまえが存在していると思うと非常に感慨深い気持ちになります。

今回は浅田次郎の短編小説集の『鉄道員（ぽっぽや）』を紹介しましたが、学生のうちにこうした短編小説を多く読んでおくと、将来経験を重ねた自分自身と重ね合わせて作品の感想の変化をより深く楽しむことができると感じます。

短編小説は社会人になってからも再読しやすく、その都度新しい発見がある点が魅力です。忙しい日々の中でも短い時間で読めるため、気軽に読書の楽しさを思い出させてくれる存在です。

機械システム系 近藤 雄大

『教師のための運動学：

運動指導の実践理論』

吉田 茂，三木 四郎：編（大修館書店）

運動部活動している皆さんにオススメです。部活中によく指導される「こんな感じ」が言語化されています。いわゆるスポーツする上での「コツ」とか「カン」について、マイネルのスポーツモルフォロジーの考え方を基に、現場の指導者や教師の動き方の指導を通じて、その一端が理論的に解説されています。



図書委員活動報告

弥生祭等催し物班



私たち弥生班では、「無料古本市」と「しおりづくり」を行いました。また、津山図書館より「ぶっくまる」に来ていただくことができました。

1日目が雨だったにもかかわらず、2日目同様、たくさんの人が来ていただきました。その結果、11箱もあった古本が3箱になりました。他にも、「あ、これは昔読んだことあるからまた読もう」などの声を聞くことができ、とても嬉しかったです。

しおりづくりでは、素敵な作品を作っていただくことができました。多くの方のご協力のおかげで、素晴らしいイベントになったと思います
(情報システム系2年 田窪 天音)

品を作っていただくことができました。多くの方のご協力のおかげで、素晴らしいイベントになったと思います。

読書感想文コンクール班

私たちの班は読書感想文コンクールを開催しました。今年も沢山の方々に応募していただき嬉しく思います。

皆さんの出会った物語に対する気持ちを感じながら、班員で楽しく読ませていただきました。今回は、その中で特に心に響いたものを選びました。

これからもみなさんに沢山の本と出会ってもらえると嬉しいです。

(電気電子システム系4年
野上 光太)



図書委員は、弥生祭等催し物班、読書感想文コンクール班、ブックハンティング・交流会班、図書館報班の4班に分かれて活動しています

ブックハンティング・交流会班



私たちの班ではブックハンティングを行いました。書店へ直接赴き勉強分野の本や小説など、様々な魅力的な本を購入することができました。

この度購入した本はブックハンティングコーナーを図書館内に設置しているので是非図書館にお越しください。

また交流会は今年は津山高専主催で開催することとなりました。美作大学と津山高校の学生の方々とお互いの活動報告、レクリエーションを行い有意義な時間を過ごすことができました。

(情報システム系5年 鷺田 翔空)

図書館報班

私たち図書館報班は、図書館報に掲載する内容や原稿執筆のお願いなど、班員で担当を決め、活動を進めてきました。

本館報はたくさんの先生方にお世話になり完成することができました。

本館報を、皆様に無事に届けることができていることをうれしく思うとともに、作成に協力して下さった皆様に感謝申し上げます。

(機械システム系4年
塚越 珠雫)



教養としてのプログラミング講座

清水 亮：著（中央公論新社）

現在我々の馴染み深い存在となった「プログラミング」。この本ではプログラミングの書き方だけでなく、歴史から生活に役立つテクニックまで網羅し、プログラマーの考え方を学ぶことができる。終盤には著者のプログラミングの未来についての展望が書かれており、色々と考えさせられる内容となっている。

プログラミングに興味のある人、自信がない人、得意な人、是非読んでみてほしい。

六法推理

五十嵐 律人：著（KADOKAWA）

現役の弁護士である五十嵐律人が書く“法律×推理”ミステリー！

学園祭でにぎわう露山大学の片隅。法学部四年、古城行成が運営する「無料法律相談所」に訪れる経済学部三年、戸賀夏倫。彼女の住むアパートで起こる奇妙な現像…。

「法律マシーン」古城と、「自称助手」戸賀の凹凸コンビが5つの難事件に挑みます！

荒木飛呂彦の新・漫画術 悪役の作り方

荒木 飛呂彦：著（集英社）

言わずと知れた「ジョジョの奇妙な冒険」の作者である荒木飛呂彦。彼の作品に登場する魅力的な悪役たちはどのようにして生まれたのかを掘り下げた一冊。

漫画や小説を書いてみたいという方に役立つのはもちろん、そういったことに興味がない人も、この本を読めば、これから目にする物語の世界をより新しい視点で楽しむことができるだろう。

黒猫ニャンゴの冒険

篠浦 知螺：著（KADOKAWA）

「最弱種族」といわれる猫人に転生し、「空っぽ」と馬鹿にされる空属性を手に入れたニャンゴ。創意工夫でハンデを乗り越え、空属性を「何でもできる魔法」へと変えて最強の冒険者として活動する物語です。

楽しくおいしく、時には真面目に。失敗しても諦めないニャンゴの活躍から目が離せません！！

「N」 道尾 秀介：著（集英社）

6つの短編からなるミステリー作品。読み始める編の順によって話の形が変わっていき、すべての物語が繋がっている。

1編ずつ本文が上下逆転しており、本をひっくり返すたび、登場人物への印象もひっくり返る。

物語は $6 \times 5 \times 4 \times 3 \times 2 \times 1 = 720$ 通り、自分だけの物語を体験しよう。「一冊の本」の概念を変える道尾秀介の新境地！



ブックハンティング
新刊紹介

真夏の方程式 東野 圭吾：著（文藝春秋）

天才物理学者の湯川学が論理的思考で難事件を解決へと導いていく、言わずと知れたミステリーの金字塔、ガリレオシリーズの第6弾。また、ガリレオシリーズで3つめの長編作品でもあります。

科学的な視点で様々な角度から謎を紐解いていく湯川の名推理にも注目です。

そして五人がいなくなる

はやみね かおる：著（講談社）

名(迷)探偵 夢水清志郎が事件を華麗？に解決していくお話。タイトルからも分かるように、アガサクリスティの「そして誰もいなくなった」がオマージュされているが、安心してほしい。今作では犯人も含めた、すべての人がハッピーエンドを迎えるという約束されている。

小学生向けの本だが、結構本格的なミステリーとなっているのでぜひ読んでみてほしい。

図解入門ビジネス 再生可能エネルギーの仕組みと動向がよ～くわかる本

今村 雅人：著（秀和システム）

パリ協定での「1.5度目標」や「脱炭素化」。地球温暖化が深刻化し、二酸化炭素の排出を抑えようと世界各国が努力している現在、環境負荷が少ない「再生可能エネルギー」が重要な役割を担うことが期待されています。そんな再生可能エネルギーについて、図やグラフを用いてわかりやすく解説しています。

**基礎から鍛える量子力学 松浦 壮：著
（日本能率協会マネジメントセンター）**

原子や電子など「量子」の性質を解き明かす学問である量子力学。しかしながら難解な理論や複雑な数式など、興味を持って学ぶためのハードルがとても高く、なかなかとつきにくい学問であるといえるだろう。

この本はそんな量子力学を高校数学から解説している本となっている。量子力学に興味を持っている方や授業で学んだことをしっかりと理解したい方は是非、この本を手にとってみてはいかがだろうか。

知りたいことがすべてわかる**宝石・鉱物図鑑**

新星出版社編集部：編（新星出版社）

ダイヤモンドやルビーなどの代表的な宝石から、パワーストーンなどに使われる天然石、鉱物までの200種類が、美しい写真とわかりやすい解説で紹介されています。

石の見るべきポイントやお手入れ方法など、より実用に沿った内容も盛りだくさんです。

石の美しいビジュアルでページをパラパラとめくるだけでも楽しめる一冊となっています。ぜひ手に取ってみてください！



ブックハンティング
新刊紹介

弥生祭での展示

古本市場を開催



「無料古本市場」では、約段ボール11箱分を用意しました。今まで行った弥生祭での残った分と、弥生班5人で集めた約130冊分を出しました。弥生班で集めたものは、自宅や先生の研究室、同級生からの提供です。内容としては、専門書(CADなど)やエッセイ、ミステリー、ファンタジー、歴史小説、短編小説、自己啓発本、図鑑、参考書、大学の過去問など多くの種類の本を集めることができました。「ハムスターの育て方」や「バスケットボールのコツ」などの変わり種もありました。特に自己啓発本やファンタジーなどを持って帰る人が多いと感じました。また、かつて津山高専で勤められていた戸田先生の蔵書を寄付して頂きました。当日では多くの人に来ていただく事ができ、弥生祭終了後本は約3箱分残り、たくさん持って帰っていただくことができました。

「しおりづくり体験」では短冊形に切られた画用紙に、好きな絵を描き、マスキングテープを貼るなどして作成して頂きます。その後、図書委員が

ラミネーターを使い加工します。その加工された物の角を、丸く切り上部に穴をあけ紐を通し完成です。弥生祭中作成されたしおりには、座右の銘を書かれた方や、動物を描かれた方などいました。「ぶっくまる」では、津山市立図書館からの本の貸出が行われていました。1日目は雨が降ったため行うことができませんでした。しかし、2日目は快晴で、図書館より来ていただく事ができました。

多くの方のご協力のおかげで、素敵な行事になったと思います。



図書委員 お薦めの本 紹介

都会のトム&ソーヤ1

私がおすすめする本は、「都会のトム&ソーヤ」です。この本は、頭脳明晰で竜王グループの後継者の竜王創也と、平凡な中学生の内藤内人が、数々の困難を乗り越えながら、二人で究極のゲームをつくるために奮闘する物語です。

この小説の面白いところは、知恵とサバイバル能力をもった二人が、思いがけない方法で様々な困難を解決するところです。

あなたはゲームが好きですか？ また、どんなゲームが好きですか？ この小説では、RRPG（リアルロールプレイングゲーム）と呼ばれる、現実世界を舞台としたロールプレイングゲームが展開されます。

第一巻では、そのRRPGで有名な正体不明のゲームクリエイターに迫ります。

ゲームが好きな方なら、ゲームをプレイするときのような純粋な好奇心で、時間を忘れて読み続けることができるでしょう。

都会のトム&ソーヤ1

はやみねかおる：著（講談社）

むかしむかしあるところに、死体があってもめでたしめでたし。

むかしむかしあるところに— 『こぶとり奇譚』『陰陽師、耳なし芳一に出会う。』『女か、雀か、虎か』『三年安楽椅子太郎』『金太郎城殺人事件』

この作品は『こぶとりじいさん』や『耳なし芳一』など、日本の有名な昔ばなしを題材としてつくられたミステリー小説が5話収録されています。

この一風変わったミステリー小説は昔ばなしの話を基にして物語が展開されていて、昔ばなしの続きやIFストーリーをミステリーという形で楽しむことができます。

ミステリーが好きな方もそうではない方も一度この本を手にとってみてはいかがでしょうか。

きっと誰もが懐かしく面白いストーリーに引き込まれるでしょう。

むかしむかしあるところに、死体があってもめでたしめでたし。

青柳 碧人：著（双葉社）

校内読書感想文コンクール

図書委員が優秀作品を選出しました

第1位

わたしの終末 1年3組 河本 明未佳

『終末のフール』は、地球が残り八年で小惑星の衝突により滅亡するという予言から五年後の世界で、生き抜く人々の日々を描いた8つの短編からなる連作集である。

まず、地球滅亡が予告されたことで、世界がパニックに陥った様子がリアルに描かれており、非常に印象的だ。暴動や凶悪犯罪が多発し、警察さえも街のためではなく、自らのストレス発散の手段として職務を遂行する。滅亡を前にしてすでに醜いディストピアが完成してしまっているのだ。そして、その混乱から五年が経過し、生き残った登場人物たちの家族や身近な人々は、かつての混乱によって精神的な病気を患ったり、先に命を絶ったりしている。大切な人を失った上、残された三年の期間を懸命に生きようとする登場人物の考え方に、私はとても心を動かされた。

読了後、私は自分が同じ状況に置かれたとき、どのように過ごすだろうかと考えた。私が本書で特に印象深かったのは、「鋼鉄のウール」と「天体のヨール」の2篇だ。それぞれ、格闘技に打ち込む選手と、天体観測を生きがいとする人物が登場するのだが、いずれも、地球滅亡の前にしても日々を普段通りに生き抜くという考え方を持っている。私には現在、なにかに没頭することがないため、彼らのように残された期間を過ごすことはできないだろうな、と感じた。同時に、彼らへの憧れを強く感じた。

「地球滅亡」や、「終末世界」といったワードは、どうも非現実的で自分自身には投影し辛い。しかし、それは「人生の終末」に置き換えることで、すんなりと入ってくるものだ。それ

は病気や事故、事件、戦争、災害といった形で、予期せずやってくる。人生の終末は、つまり「死ぬこと」であり、身近なことなのである。

私自身、恵まれた環境にいて、「死」を身近に感じていなかったというのが思い当たる。平和な日々を当たり前だと思っていたからこそ、物事を容易に後回しにするくせがついてしまった。だから、読書感想文を書くことに今、追われているのだ。

私は本書を通して、自分自身の生き方について真摯に向き合い直す機会を得ることができた。今後は、読書感想文や課題の期限に追われることなく、前もって行動できるようにしたい。そうすることで、限られた日々を大切にしていきたい。そう、強く思ったのであった。終末のわたし。

(伊坂 幸太郎 『終末のフール』)



第2位

「データ」社会の中で

電気電子システム系2年 小田 真也

物語の舞台は、遺伝子情報を用いた捜査システムが導入された日本であり、科学技術が急速に進歩した社会が描かれている。このプラチナデータシステムは、犯罪現場に残された遺伝子情報を解析することで犯人を特定することができるという画期的な技術である。

主人公の神楽龍平は、このシステムを開発し

た天才科学者であり、彼は自らの研究に誇りを持っていた。しかし、ある日、神楽はシステムによって自身が殺人事件の犯人として指名手配される。システムの誤作動によって、無実の罪を着せられた神楽は、逃亡することになる。逃亡の中で、神楽はシステムの開発に関わった過去の同僚や、彼の逃亡を追う刑事・浅間玲司との接触を経て、システムの真の目的や隠された秘密に迫っていく。彼は次第に、自分が関わってきたプロジェクトの裏側に潜む陰謀や、システムが持つ致命的な欠陥に気づく。神楽の逃亡劇と並行して、浅間刑事もまた、自らの信念に基づいて捜査を進めるが、次第にシステムへの疑念を抱くようになる。物語の最後では、神楽と浅間が協力してシステムの陰謀を暴き出す。彼らはシステムの背後にいる黒幕を追い詰め、最終的にはシステムの誤作動の原因を突き止めることに成功する。しかし、その過程で、神楽は自身の遺伝子情報がどれほど危険なものかを改めて認識し、システムの利用方法について深く考えるようになった。

この作品を読んだ後、私は遺伝子情報の利用についてもっと知りたくなり、いくつかのニュースを調べてみた。特に印象に残ったのは2018年頃に話題になったアメリカの大手遺伝子解析会社、23andMeに関するニュースである。この会社は遺伝子情報を解析することで個人に適した健康プランや祖先情報を提供するサービスを展開しているという内容だった。そのニュースを読んだとき、私は、最初は驚きと興味を感じた。例えば、遺伝子情報から自分のルーツを知ることができ、さらに将来の健康リスクを予測して生活習慣を改善するアドバイスもらえるというのは、非常に革新的で便利だと感じた。これなら、自分の健康をより良く管理できるかもしれないと考えた。しかし、その一方で、ニュースの中で指摘されていたプライバシーやセキュリティの問題も気になった。23andMeが集めた膨大な遺伝子データがどのように保護されているのか、またそれが第三者に提供される

リスクがあるのではないかという懸念が示されていたのだ。その話を聞いて、私は『プラチナデータ』の物語と重なる部分があることに気づいた。遺伝子情報は非常に個人的で重要なデータであり、それが不正に利用されれば、個人のプライバシーや安全が脅かされる可能性がある。

『プラチナデータ』の中では、遺伝子情報を用いたシステムが犯罪捜査に利用されるが、そのシステムが持つ欠陥や倫理的問題が浮き彫りになる。23andMeのニュースを調べてから、私は遺伝子情報の利用について考え直すようになった。遺伝子情報を利用することは確かに多くのメリットがあるが、それに伴うリスクを軽視してはならない。例えば、自分の健康状態を知るために遺伝子解析を行うことは良いことかもしれないが、その情報がどのように保護されるのかを確認することが重要だと考えた。また、このニュースを通じて、私は個人情報の管理についても考えさせられた。私たちは日常生活の中で多くの個人情報を提供しているが、それがどのように利用されるのかについてはあまり考えていないことが多い。しかし、遺伝子情報のような非常にセンシティブな情報が不正に利用されれば、その影響は非常に大きい。

『プラチナデータ』を読んで遺伝子情報の利用について深く考え、現実のニュースを調べることで、技術の進歩がもたらす可能性とそのリスクについて、改めて理解を深めることができた。この経験を通じて、私は技術と倫理のバランスの重要性を再認識し、今後その視点を持ち続けることの必要性を強く感じた。

(東野 圭吾『プラチナデータ』)



第3位

私の本当の幸い

1年3組 山本 依世

私は、宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」を読みました。この本を選んだきっかけは「文豪ストレイドッグス」という漫画でたくさんの文豪たちと作品を知りそのキャラクターの中で特に興味がわいたのが宮沢賢治で調べたときにきれいな題名だったからです。

この本のあらすじは、気弱で孤独な少年「ジョバンニ」とその親友である「カムパネルラ」が銀河鉄道で天の川に沿って南十字（サウザンクロス）へと向かう銀河の旅の話です。この銀河鉄道に乗る不思議な乗客たちは、天上に向かう死者たちであることが示唆されています。死者たちの口からは「本当の幸い」について繰り返し語られ、主人公のジョバンニもまた、何がみんなにとっての「本当の幸い」なのかと考え始めます。最後のカムパネルラ川に落ちて溺れていた友達を助けるために川に飛び込んで亡くなってしまったシーンには思わず驚きを隠せませんでした。

この本の作者である宮沢賢治は1896年生まれの人で、もともと江戸幕府を中心とする封建的支配体制、いわゆる幕藩体制を打破し天皇を中心とする中央主権国家になって様々な西洋の文化が入ってくる文明開化が起こり現代の日本の礎が築かれた明治時代生まれなのですが、その文明開化で入ってきたであろう西洋の名前の主人公や江戸時代には走ってなかったのであろう鉄道など時代を感じられる文章でした。宮沢賢治という人物の性格は生まれたままのようにうぶな純な心を持ち仏心篤く多くの人を助けたといわれており私は本を読む中でジョバンニに宮沢賢治の趣を感じました。

本を読む中で、宮沢賢治の美しい表現力のある文章の中で何度も綴られていた「本当の幸い」について私は疑問を感じました。考えてみると私は今生きている中で一度も「本当の幸

い」というものについて深く考えたことがなかったからです。私はさっきジョバンニには作者の宮沢賢治の趣が残っていると述べました。つまり物語の主人公であるジョバンニ、カムパネルラ、ほかの乗客の故人の方々が何度もしつこく本当の幸いについて問い続けていたのは宮沢賢治自身が銀河鉄道の夜という作品を通して読者の人々に「本当の幸い」の答えを教えてほしかったのではないかとかんがえました。宮沢賢治はとても心優しい方です。なのでみんなが幸せになる、みんなにとっての幸せとは何だろうという気持ちがあってこの本を書いたのだと思いました。

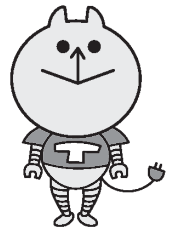
私もこの銀河鉄道の夜を読んで私なりに「本当の幸い」を考えてみました。私が考えた「本当の幸い」は誰かが得をして誰かは損をする不平等な世界ではなくみんな同じようにおいしいものを食べて、たくさん寝て、元気に遊んだりする現代の日本では当たり前になりかけていることが全世界で行われることだと思います。年齢や男女関係なく国境を越えても差別のない今はない当たり前が実現できるような世界に私は本当の幸いを感じ、そうなってほしいと願っています。

日本にも昔にあった男女の差別、現代でもある高齢者や障害を持つ人への差別、黒人、白人、黄色人種など肌の色に関わる国境を越えた人種差別など、世界には様々な差別が存在します。私自身難聴を患っていて補聴器をして生活をしています。それをよく思わない人も一定数はいるでしょう。女だろうが男だろうが高齢者だろうが病気を患っていようが黒人だろうが白人だろうが人は平等に生きていい権利があります。一人一人が宮沢賢治のように温かい心をもって常に相手の幸せを考えているとこんな差別は起きるはずがないです。以上のことから私は銀河鉄道の夜を読んで「本当の幸い」についてこう考えました。

(宮沢 賢治『銀河鉄道の夜』)

ご存知ですか、図書館の使い方

ぜひ積極的に図書館を利用しましょう



学習のための多様な活動空間

- 専門書、一般書、小説
- 電子ジャーナル、データベース
- パソコン、プリンタ
- インターネット、校内Wi-Fi
- 広い机、ホワイトボード
- ミーティングルーム

開館日時

平日8:30～20:00 土曜13:00～17:00

テスト期間中の土日祝日13:00～20:00

長期休業中は平日8:30～17:00 土日祝日は閉館



本を借りる

 貸出期間は2週間、貸出冊数は5冊で、貸出には学生証が必要です。また、1度のみ貸出期間の延長が可能です。

 返却は図書館カウンターもしくは寮のブックポストに返却してください。



図書館にある本を探す

 蔵書検索（OPAC）で請求記号を調べて、その記号の書棚の場所に行きましょう。

 書棚の本は分野別に並んでいるので、興味がある分野の書棚を探してみましょう。

市立図書館の本を取り寄せる

 市立図書館蔵書検索（OPAC）で予約し、受取場所を本校に指定しましょう。



Topics!



図書館のミーティングルームには寄贈された備前焼の蘭引（らんびき）が展示されています。蘭引とは江戸時代に使用された蒸留器で、酒や水を蒸留して精製し、アルコールや蒸留水を得るための道具です。



本をリクエストする

📖 学生希望図書の申込用紙を図書館カウンターに提出しましょう。

論文を調べる

📖 図書館WEBサイト記載の電子ジャーナル・データベースを利用してみましょう。

過去の卒業研究を閲覧する

📖 令和3年度より電子化されています。それ以前の場合は図書館奥の集密書架にあります。閲覧したい場合は図書館カウンターで相談してください。なお、一部を除き、持出・複写不可です。

情報機器を利用する

📖 プリンタは両面印刷可能、カラー印刷はできません。大量印刷は控えましょう。

📖 ノートPCを図書館カウンターで貸出しています。

📖 校内Wi-Fiの使用は総合情報センターでの申請が必要です。

グループで学習する

📖 ミーティングルームが利用できます。図書館カウンターで予約、申し込しましょう。

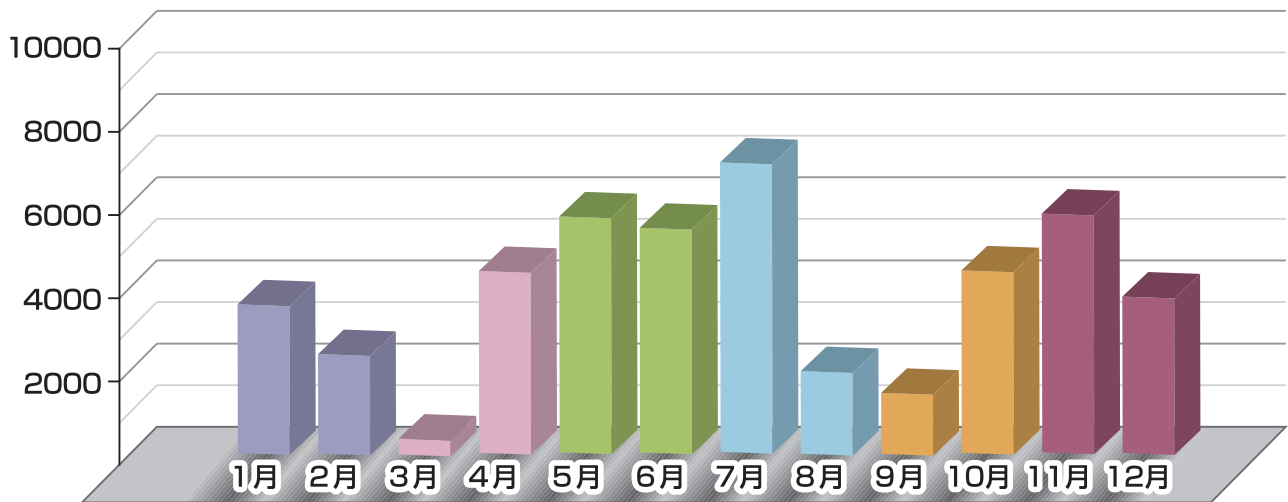
守ってほしいルール

📖 飲食禁止（フタつき容器の飲物のみ可）

📖 携帯電話等での通話禁止

📖 大声で話すなどの迷惑行為禁止

入館者数 2024

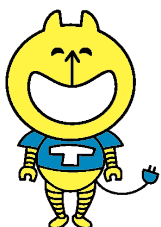


貸出ランキング 2024

(期間：2024年1～12月)

No.	書 名	著 者	出版社
1	公式TOEIC Listening & Reading問題集	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会
2	編入数学徹底研究	桜井基晴	聖文新社
3	TOEIC L&Rテスト文法問題で 1000問	TEX加藤	アスク出版
4	作りながら覚える SUBSTANCE PAINTERの教科書	鬼木拓実・玉ノ井彰祥・大澤龍一 黒澤徹太郎・留目貴央	株式会社ボーンデジタル
5	ドクター・ハルの折り紙数学教室	トーマス・ハル	日本評論社

編集後記



私は今回が初めての図書館報の担当でした。そのため、慣れないことも多く、同じ班のメンバーや、先生方にご迷惑をおかけしてしまいました。それでも、たくさんの方にご協力いただき図書館報を完成させることができたこと、本当にうれしく思います。

本館報に記載されている、先生や図書委員のお薦めの本紹介や、交流会について読むことで、図書館にまだ行ったことのない人にも図書館の魅力が伝わればいいと思います。

最後になりましたが、原稿依頼を快く引き受けてくださった先生方、本館報を作成するにあたり、ご協力くださったすべての方にお礼申し上げます。

(機械システム系4年 塚越 珠零)

発行

独立行政法人 国立高等専門学校機構
津山工業高等専門学校図書館